

# 11. 甲子園を目指す高校生たち

各務原市立陵南小学校

6年 丸山 陸登 戸崎 大輔

↓

敦賀市立赤崎小学校

5年 上塚 柚佳

「うっしゃー」

ある日、GS（ゴンザレス）学園に一人の少年が入学して来た。その名は久遠光。この久遠は中学から名を轟かせていたが、このGS学園に一人だけ、すい選されて入って来た優秀な野球選手である。

「久遠、やっと来たか」

「はい」

久遠は言い返した。

これから始まるのは、久遠と野球部が甲子園を目指す話である。

カーン。シューン。

「ナイスボール」

久遠は夏の大会で甲子園に行こうと今、練習中である。あっという間に夏の大会に入ってしまった。久遠は一年生ながらもエースで、打順は四番である。

「集合」

「しゃー」

ウーーーーー。

サイレンの音が高々と鳴る。

「プレイボール」

先攻は、久遠率いるGS学園である。一番は、三年生の岡田。

「一番センター岡田君、背番号8」

「打てー！ 岡田」

「まかせろー」

シューン。

「は、はええ」

相手の投手は、MAX145キロを投げる有名な投手だ。

コン。

「ナイスバント」

ボールは、ラインギリギリまで転がっている。

「クソ」

バシュ。パン。

「アウト」

「クソー」

「二番サード中井君、背番号5」

「来い！」

カン。

打球はショートゴロ。

「クソ」

「三番ファースト中西君、背番号3」

パシュ。カキーン。

打球は高々と外野へ。

パン。

「アウト」

いい所へは飛んだがレフトフライだった。

「しまっていくぞ！」

「一番センター西田君、背番号8」

バシュー。

「ストライク！」

「ストライク！」

「はええ」

「ストライク！ バッターアウト」

「しゃあー」

久遠はおたけびをあげた。

そして二番三番も三しんで終わらせた。久遠のMAXは140キロである。そして二回、三回と押さえた久遠ではあったが、七回で久遠は交代してしまった。

「お疲れ」

「まだいけました」

久遠は強い口調で言った。

「ピッチャー交代のお知らせをします。ピッチャー久遠君に代わりまして、小川君、背番号11」

バシュ。カーーン。

打球はレフトスタンドー直線。

「いまのはマグレだ」

バシューー。カキーン。

今度はバックスクリーンへすいこまれるように入って行った。

「クソ」

バシュ。カキーン。

けっきょくそのホームランが決め手となり、一回戦でGS学園は3対0で負けてしまったのであった。

翌年四月、GS学園に一年生が入って来た。久遠は、ある一人の一年生に目をつけた。名前は岩田。ポジションはセンターである。

「オーダーを発表する」

「どうやら練習試合をするようだ。★」

「一 久遠」

「はい」

「二 清水」

「はい」

「三 中島」

「はい」

「四 田中」

「はい」

「五 吉田」

「はい」

「六 森」

「はい」

「七 森田」

「はい」

「八 岩田」

「はい」

「九 山田」

「はい」

「以上だ。よしっ、いくぞー」

「よっしゃー」

そして、練習試合が始まった。この前の時のようにならないようがんばっていた。カーン。

「おっしゃ」

いきなり、ホームランを打ったのは三年生の森。

「二番ファースト中島君、背番号3」

「次は、中島、お前だぞ。打てよ」

「うっす」

シュッ。カーン。

またホームランを打った。

「いいぞー。その調子だ」

「三番サード吉田君、背番号5」

シュッ。シュパ。

「ストライク」

「がんばれ吉田」

シュッ。シュパ。

「ストライク」

「いけー。吉田」

シュッ。

	ポジション	名前	学年
1	6	森	3
2	3	中島	3
3	5	吉田	3
4	1	久遠	2
5	2	清水	2
6	8	岩田	1
7	9	山田	2
8	7	森田	3
9	4	田中	2

「吉田、いけ」

シュパ。

「ストライク。バッター、アウト」

「吉田、よくがんばった」

「四番ピッチャー久遠君、背番号1」

「よし、がんばってこい」

「はい」

シュッ。シュパ。

「久遠、打つんだ、がんばれ」

シュッ。シュパ。

シュッ。

「あー、もうだめだ」

だれもが、もうむりだと思っていた。しかし、久遠はちがった。

カキーン。

「なんだと」

久遠はホームランを打った。

「すごいぞー、久遠」

「よっしゃあー」

だが、清水と岩田は三しんだった。チェンジだ。かんとくは、もうむりだと思っていた。しかし、選手はちがった。絶対、勝つぞと思っていた。この前みたいになりたくなかったからだ。

「久遠、がんばれ、ストライクをとれ」

「はい」

久遠がピッチャーだ。

シュッ。シュパ。

「ストライク」

シュッ。シュパ。

「ストライク」

シュッ。シュパ。

「ストライク。バッターアウト」

「よっしゃあー」

久遠はこの調子でストライクをとった。

「す、すごいぞ。本当にストライクをとったぞ」

そして試合は終わった。GS学園が勝った。

「やったあー」

そして、選手たちは毎日、毎日、練習をして甲子園に出場したのだ。